

平成24年度採択プログラム 中間評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	熊本大学	整理番号	102
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) はらだ しんじ 氏名・職名 原田 信志 (熊本大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) にしむら やすはる 氏名・職名 西村 泰治 (大学院医学教育部・医学専攻・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) おぐら てる 氏名・職名 小椋 光 (大学院医学教育部・医学専攻・教授)		
4. 類型	1 <複合領域型(生命健康)>		
5.	プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO	
	英語名称	HIGO(Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) Program	
	副題	健康生命科学パイオニアHLSP(Health Life Science Pioneer)の養成	
6. 授与する博士學位分野・名称	博士(健康生命科学)、博士(医学)、博士(生命科学)、博士(薬学)、博士(薬科学)		
7. 主要分科	(① 基礎医学) (② 薬学) (③ 政治学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	神経科学一般、生理学一般、医化学一般、病態医化学、人体病理学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、創薬化学、医療系薬学、代謝学、内科学一般、免疫学、小児科学、人類遺伝学、公衆衛生学・健康科学、腫瘍生物学、発がん、ゲノム医科学、哲学・倫理学、外国語教育、政治学、経済政策、経営学、社会学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医学教育部医科学専攻(修士課程)、医学教育部医学専攻(博士課程)、薬学教育部分子機能薬学専攻、薬学教育部生命薬科学専攻(旧課程)、薬学教育部博士前期課程 創薬・生命薬科学専攻、薬学教育部博士後期課程 創薬・生命薬科学専攻、薬学教育部博士課程 医療薬学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	熊本県、熊本市、第一三共(株)、一般財団法人 化学及び血清療法研究所、同仁化学研究所(株)、熊本日日新聞社、熊本商工会議所、熊本経済同友会、九州地域バイオクラスター推進協議会		

(機関名:熊本大学 類型:複合領域型(生命健康) プログラム名称:グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO)

14. プログラム担当者の構成 計 38 名					
外国人の人数	1 人	[2.6 %]	女性の人数	7 人	[18.4 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [71.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			27 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			24 人	そのうち、大学等以外に属する者	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 西村 泰治	ニシムラ ヤスヒル		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	統括責任者
(プログラムコーディネーター) 小椋 光	オガラ ヒル		大学院医学教育部・医学専攻・教授	理学博士	プログラムの企画・運営の総括
竹屋 元裕	タケヤ モトヒロ		理事・副学長	医学博士	プログラムの点検・改善
中尾 光善	ナカオ ミツヨシ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 産業界連携
富澤 一仁	トミザワ カズヒト		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	プログラム・カリキュラムの編成・点検・改善
大塚 雅巳	オオツカ マサミ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	行政・企業インターンシップ
甲斐 広文	カイ ヒロフミ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	海外コーディネート、創薬研究指導
上野 眞也	ウエノ シンヤ		政策創造研究教育センター・教授	博士(公共政策学)	公共政策教育 行政コーディネート
西中村 隆一	ニシナカムラ リュウイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	プログラムの点検・改善 行政連携 広報
小川 峰太郎	オガワ ミネ太郎		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(薬学)	プログラムの点検・改善、カリキュラムの編成・運営
宋 文杰	ソウ ブンケツ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	工学博士	カリキュラムの編成・評価 国際連携 広報
太田 訓正	オオタ ケニマサ		大学院医学教育部・医学専攻・准教授	博士(理学)	プログラム・カリキュラムの点検・改善、国際連携
荒木 栄一	アラキ エイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携
山縣 和也	ヤマガタ カズヤ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 留学生支援
加藤 貴彦	カトウ タカヒコ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 産業界連携
遠藤 文夫	エントウ フミオ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	国際交流 産業界連携
尾池 雄一	オイケ ユウイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	産業界連携
西谷 陽子	ニシヤ ヒコ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	行政連携
入江 徹美	イリエ テツミ		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	行政インターンシップ、臨床研究指導 薬学専門講義
山縣 ゆり子	ヤマガタ ユリコ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	海外・企業インターンシップ、創薬研究指導 薬学基礎講義
有馬 英俊	アリマ ヒデトシ		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	海外・企業インターンシップ、創薬研究指導 薬学基礎講義
丸山 徹	マルヤマ トオル		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	企業インターンシップ、創薬・臨床研究指導 薬学専門講義
今井 輝子	イマイ ヒルコ		薬学部・特任教授	薬学博士	産業界連携
石原 明子	イシハラ アキコ		大学院社会文化科学研究科・准教授	文学修士	公共政策教育
河村 洋子	カムラ ユウコ		政策創造研究教育センター・准教授	博士(健康教育及びヘルスプロモーション)	社会文化科学教育

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
高橋 隆雄	タカハシ タカオ		大学院先導機構・客員教授、名誉教授	博士(文学)	社会文化科学教育のコーディネート
小野 友道	オノ トモミチ		熊本大学顧問・名誉教授	医学博士	医療行政教育 行政インターンシップ
安川 文朗	ヤスカワ フミアキ		横浜市立大学国際総合科学部・教授	博士(経済学)	社会文化科学教育 海外インターンシップ
糸 昭苑	イト ショウエン		東京工業大学・教授	博士(理学)	プログラム運営に関する助言・支援
蒲島 郁夫	カシマ イクオ		熊本県・知事	政治経済博士	政治学教育 行政インターンシップ
大西 一史	オオニシ カズヒ		熊本市・市長	修士(法学)	政治・行政教育 行政インターンシップ
幸山 政史	コウヤマ セイシ		前熊本市長	経済学士	政治・行政教育
田川 憲生	タガワ ケンセイ		熊本商工会議所・会頭(ホテル日航熊本・社長)	文学士	政治学・経済学教育 企業インターンシップ
甲斐 隆博	カイ タカヒロ		熊本経済同友会代表幹事(肥後銀行頭取)	商学士	政治学・経済学教育 企業インターンシップ
井芹 道一	イゼリ ミチカズ		熊本日日新聞社・編集委員	教育学士	地方紙ジャーナリズムについての講義 企業インターンシップ
佐々本 一美	ササモト カズミ		株式会社同仁化学研究所・常務取締役	薬学博士	企業セミナー
前田 浩明	マエダ ヒロアキ		一般財団法人 化学及血清療法研究所 研究推進部 部長	博士(農学)	企業セミナー インターンシップ
玉井 馨子	タマイ ケイコ		第一三共株式会社 研究開発本部癌研 究所 主任研究員	博士(理学)	企業セミナー インターンシップ

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有・無)	
プログラム募集定員数(実数)	20人	20人	20人	20人	
① 応募学生数	12人	17人	23人	32人	
	うち留学生数	2人	9人	17人	16人
	うち自大学出身者数	5人(0人)	8人(0人)	3人(0人)	14人(0人)
	うち他大学出身者数	7人(2人)	9人(9人)	20人(17人)	18人(16人)
	うち社会人学生数	-	-	-	-
うち女性数	4人(1人)	2人(2人)	10人(7人)	12人(5人)	
② 合格者数	9人	12人	13人	24人	
	うち留学生数	2人	7人	9人	10人
	うち自大学出身者数	5人(0人)	5人(0人)	2人(0人)	13人(0人)
	うち他大学出身者数	4人(2人)	7人(7人)	11人(9人)	11人(10人)
	うち社会人学生数	-	-	-	-
うち女性数	4人(1人)	2人(2人)	6人(3人)	11人(4人)	
③ ②のうち受講学生数	9人	11人	11人	20人	
	うち留学生数	2人	6人	7人	7人
	うち自大学出身者数	5人(0人)	5人(0人)	2人(0人)	12人(0人)
	うち他大学出身者数	4人(2人)	6人(6人)	9人(7人)	8人(7人)
	うち社会人学生数	-	-	-	-
うち女性数	4人(1人)	1人(1人)	6人(3人)	9人(2人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	1.33倍	1.42倍	1.77倍	1.33倍	
充足率(合格者数/募集定員)	45.00%	60.00%	65.00%	120.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度	
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計			
平成24年度選抜	5	-	-	-	-	5	-	5	-	-	-	5	-	-	5	-	-	5	-	-	-	5	-	-	5		
うち留学生数	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1		
うち自大学出身者数	3	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	3	-	-	3	-	-	3	-	-	-	3	-	-	3		
うち他大学出身者数	2	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2	-	-	2	-	-	2	-	-	-	2	-	-	2		
うち社会人学生数	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0		
うち女性数	2	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2	-	-	2	-	-	2	-	-	-	2	-	-	2		
平成25年度選抜							8	-	-	-	-	8	-	8	-	-	-	8	-	-	7	-	-	7			
うち留学生数							4	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	4	-	-	4	-	-	4			
うち自大学出身者数							4	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	4	-	-	3	-	-	3			
うち他大学出身者数							4	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	4	-	-	4	-	-	4			
うち社会人学生数							-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0			
うち女性数							1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1			
平成26年度選抜													3	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	3			
うち留学生数													1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1			
うち自大学出身者数													2	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2			
うち他大学出身者数													1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1			
うち社会人学生数													-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0			
うち女性数													2	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	2			
平成27年度選抜																			8	-	-	-	-	8			
うち留学生数																			-	-	-	-	-	0			
うち自大学出身者数																			8	-	-	-	-	8			
うち他大学出身者数																			-	-	-	-	-	0			
うち社会人学生数																			-	-	-	-	-	0			
うち女性数																			7	-	-	-	-	7			
計	5	0	0	0	0	5	8	5	0	0	0	13	3	8	5	0	0	16	8	3	7	5	0	23			
修了者数	-						-						-						3	4							
就職者数	-						-						-														
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	-						9						14						3								

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.Eによるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜	4	-	-	-	4	-	4	-	-	4	-	-	4	-	4	-	-	-	4	4		
うち留学生数	1	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	1	1		
うち自大学出身者数	2	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	2	-	2	-	-	-	2	2		
うち他大学出身者数	2	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	2	-	2	-	-	-	2	2		
うち社会人学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち女性数	2	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	2	-	2	-	-	-	2	2		
平成25年度選抜						3	-	-	-	3	-	3	-	-	3	-	-	3	-	3		
うち留学生数						2	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	2	-	2		
うち自大学出身者数						1	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	1	-	1		
うち他大学出身者数						2	-	-	-	2	-	2	-	-	2	-	-	2	-	2		
うち社会人学生数						-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち女性数						-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
平成26年度選抜											8	-	-	-	8	-	7	-	-	7		
うち留学生数											6	-	-	-	6	-	6	-	-	6		
うち自大学出身者数											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち他大学出身者数											8	-	-	-	8	-	7	-	-	7		
うち社会人学生数											-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち女性数											4	-	-	-	4	-	3	-	-	3		
平成27年度選抜																12	-	-	-	12		
うち留学生数																7	-	-	-	7		
うち自大学出身者数																4	-	-	-	4		
うち他大学出身者数																8	-	-	-	8		
うち社会人学生数																-	-	-	-	0		
うち女性数																2	-	-	-	2		
計	4	0	0	0	4	3	4	0	0	7	8	3	4	0	15	12	7	3	4	26		
修了者数																			4		1	7
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数								5					7						3			

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【プログラムの概要】「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」

人類の健康増進に繋がる生命科学が急速に展開し、専門化・細分化されていることから、その成果を社会全体に分かりやすく波及することが重要である。「HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) プログラム」は、医学・薬学等を基盤とする健康生命科学の専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観(主にアジア)を連結した国際・地域社会(グローバル社会)における課題とニーズを捉えて、健康増進と疾病対策のために最新の知見と科学技術を活用する次代の医療人・専門職業人を養成する。医学・薬学・生命科学等から要点を抽出・集約して「健康生命科学パイオニア HLSP (Health Life Science Pioneer)」コースを新設し、これらの専門的な理解に加えて、人と社会と自然に関する総合的な知識や情報を積極的に習得することで、真に世界に貢献できる学識と応用能力を獲得する。とりわけ、熊本大学と熊本県・熊本市が一体となった「グローバル社会文化科学 GSCS (Glocal Social and Culture Science)」を通して、アジアと九州、歴史と文化、政治・経済・社会と生命倫理などを理解し、健康生命科学をグローバル社会の中に位置づける。この有機的に統合した斬新な大学院コースを設置し、国際的・地際的・学際的な視野と思考力に基づき、世界と地域の諸課題を自ら発見・行動・解決できるグローバル社会リーダー-HLSP の輩出を実現するものである。

【特色】 1. グローバル社会への貢献を目指した大学・行政・産業界の連携

従来の理系大学院人材は、高い専門性と欧米指向のため、地域社会やアジアに対する意識が希薄になりがちであった。しかし、科学技術が進歩する現代社会にこそ、総合的な知識と合理的判断力をもつ理系人材が不可欠である。ここで若い世代がリーダーとして活躍するには、地域や世界の人々と協働して、課題解決に自在に挑戦することが必要である。熊本大学は熊本県・熊本市と一体として「くまもと都市戦略会議」「熊本上海オフィス」の運営などの公共政策形成や社会活動を展開しており、とくに医療・教育・食糧・観光でアジアへの取組みを重視している。健康増進と疾病対策を先導するリーダーには、専門的な知識・技術に加えて、健康・医療と密接に関わる生活圏の理解が不可欠であり、産学官が一体になった HIGO プログラムで初めてそれは可能になる。行政及び地域・企業と連携することで、実践的な GSCS 教育が実施できる。県庁、市役所、上海オフィスや企業など、行政・産業界・海外へのインターンシップを導入し、我が国の産学官が連携して、地域、そしてアジア諸国に重点を置きながら、世界水準で国際社会に展開する中核的リーダーを育成する。

2. 最先端かつ国際最高水準の健康生命科学プログラム

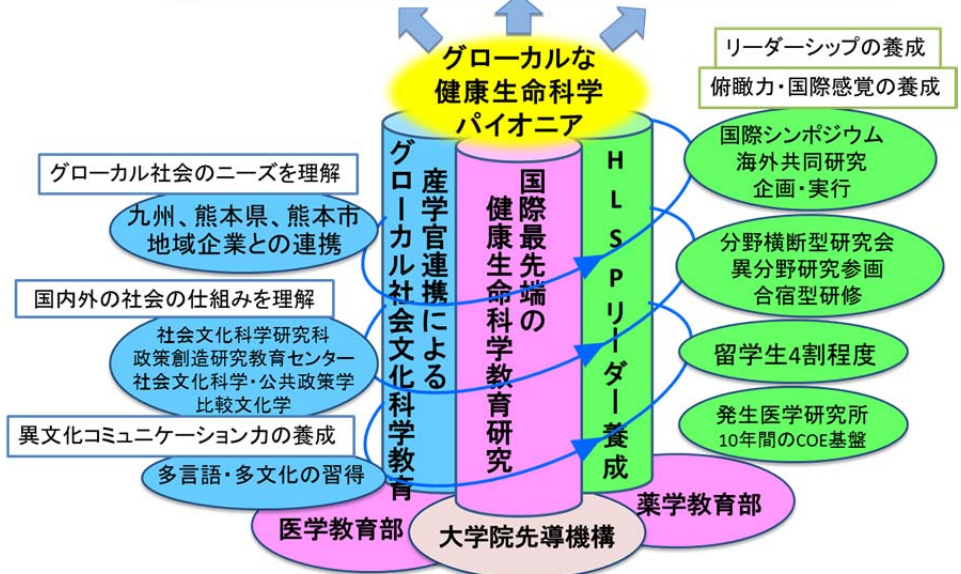
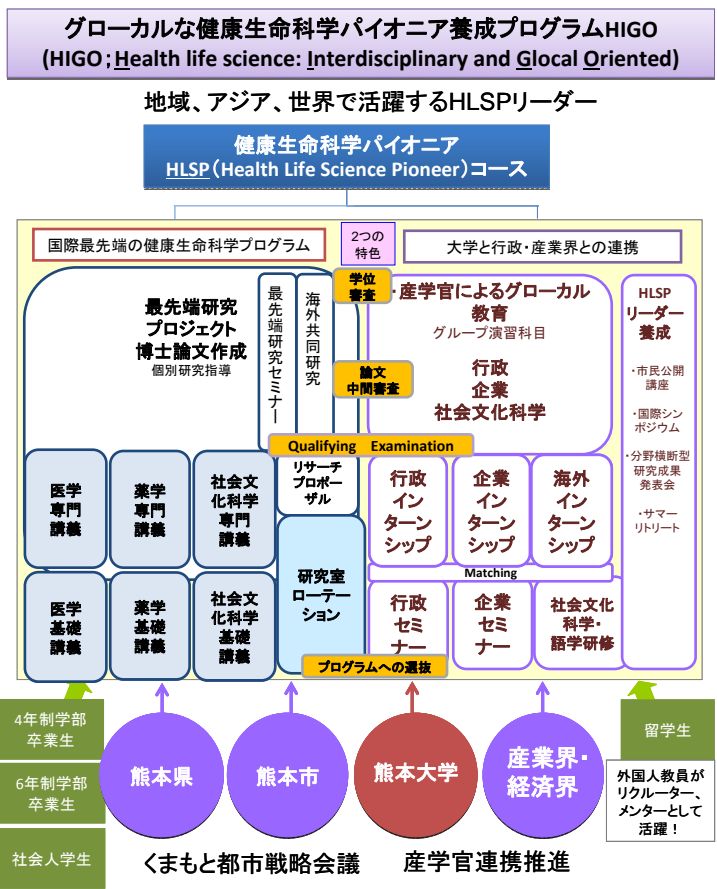
熊本大学大学院の医学教育部と薬学教育部は常に協働しており、その構成員である発生医学研究所及びエイズ学研究センターは2つのグローバル COE 拠点の中軸である。この基盤の上に、医学・薬学・生命科学及び GSCS で構成する HLSP コースを開設する。デュアル・メンター制及び研究室ローテーションによる多角的視野の養成、e ラーニングシステムによる知識の効率的な習得を図る。国内外からポテンシャルのある大学院生を集結させて、彼らが切磋琢磨する学際的な大部屋教育を行ない、国際感覚と総合知識を涵養する。本学に「国際先端医学研究拠点施設」が平成 25 年度に建設され、生命資源研究・支援センター等の設備を使用し、研究支援を受けることができる。近年の外国人留学生の増加に伴い、上記 COE 拠点では授業やセミナーの完全英語化を達成している。本プログラムでは、外国人留学生の比率をさらに 4 割程度を目標にかかげ、日本に居ながら実践的な国際化を目指す。大学・社会が一体となって、地域と世界で実働するリーダー育成環境に努める。

【優位性】

熊本大学は全学的に大学院教育と先端研究を推進する「大学院先導機構」を設置し、新たなパラダイムを描きながら各研究領域における大学改革を図っている。これまで、21 世紀 COE プログラム 2 件、グローバル COE プログラム 3 件、組織的な大学院教育改革推進プログラム 2 件等を実施し、生命科学領域では「細胞系譜制御」、「エイズ感染防御」、「発生再生・代謝循環」において顕著な実績を挙げている。発生医学研究所は、全国共同利用・共同研究拠点事業の「発生医学の共同研究拠点」であり、エイズ学研究センターと生命資源研究・支援センターは各々の先端研究拠点である。さらに、国際化推進センター、e ラーニング推進機構、イノベーション推進機構等の技術経営コースによる企業インターンシップ、社会文化科学研究科プログラムなどが整っている。本プログラムは、本学の学長を中心とする強固なマネージメント体制のもと、熊本県・熊本市、産業界が共同する HIGO プログラムを社会的に新展開する新規性と優位性がある。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



(機関名：熊本大学 類型：複合領域型 (生命健康) プログラム名称：グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO)

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	熊本大学	整理番号	I02
プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO		
プログラム責任者	西村 泰治	プログラム コーディネーター	小椋 光

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、地方大学の強みをうまく活用しつつ、学生の育成を十分に考えた研究室ローテーション実習などを含む具体的なプログラムが行われており、このまま努力を継続すれば、本プログラムの目的は十分に達成できると期待される。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、プログラムとして国内外に多様なインターンシップや留学先を準備しているほか、学生が自主的に企画提案しインターンシップを実施するなど能動的な取組もなされ、学生のキャリアパスの広がりも見られるなど、大いに評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、学長以下、プログラム責任者及びプログラムコーディネーターの熱意とリーダーシップが順調なプログラム運営につながっている。また、地域行政機関と密着し、行政からの指導・評価を受けながら行政インターンシップなどの取組を進めている点は、学生がリーダーとして活躍する素地を作る効果が期待される。医学・薬学の学生に、社会文化科学の学習とレポートの作成を義務付けている点も特色がある。また、学生1人に対し特任教員とプログラム担当者各1名のメンターを配置しており、プレゼンテーション用の資料作成、会議の企画運営など、多方面において学生からの相談・指導を行っており、評価できる。

優秀な学生の獲得については、留学生をアジア太平洋地域から積極的にリクルートしており、優秀な学生が集まっている。日本人についても、社会人経験者を始めとして希望者が増加してきており、プログラム全体の活気が学生の獲得に好影響を与えていると評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、博士課程2年次後期の学生に対して継続の可否を判定するため、2名のメンター教員による中間インタビューを実施し、リサーチプロポーザルと履修状況の確認を行っている。また、e-ポートフォリオシステムを導入し、各学生のプログラムにおける活動状況や評価結果を一元的に管理・把握するシステムを構築しており評価できる。

事業の定着・発展については、本プログラムを学長直轄の全学組織である「大学院先導機構」の中に「リーディング大学院部門」として位置付け、継続を見据えた全学的な体制が構築されている。また、財政面では支援期間終了後、大学独自の資金により本プログラムを継続する旨、学長から理解と了解を得られており評価できる。ただし、学生への経済的支援についての具体的な予算案は、支援期間終了後に学長から提示を受けるとされているが、十分な支援を継続できるよう今後一層の努力が求められる。